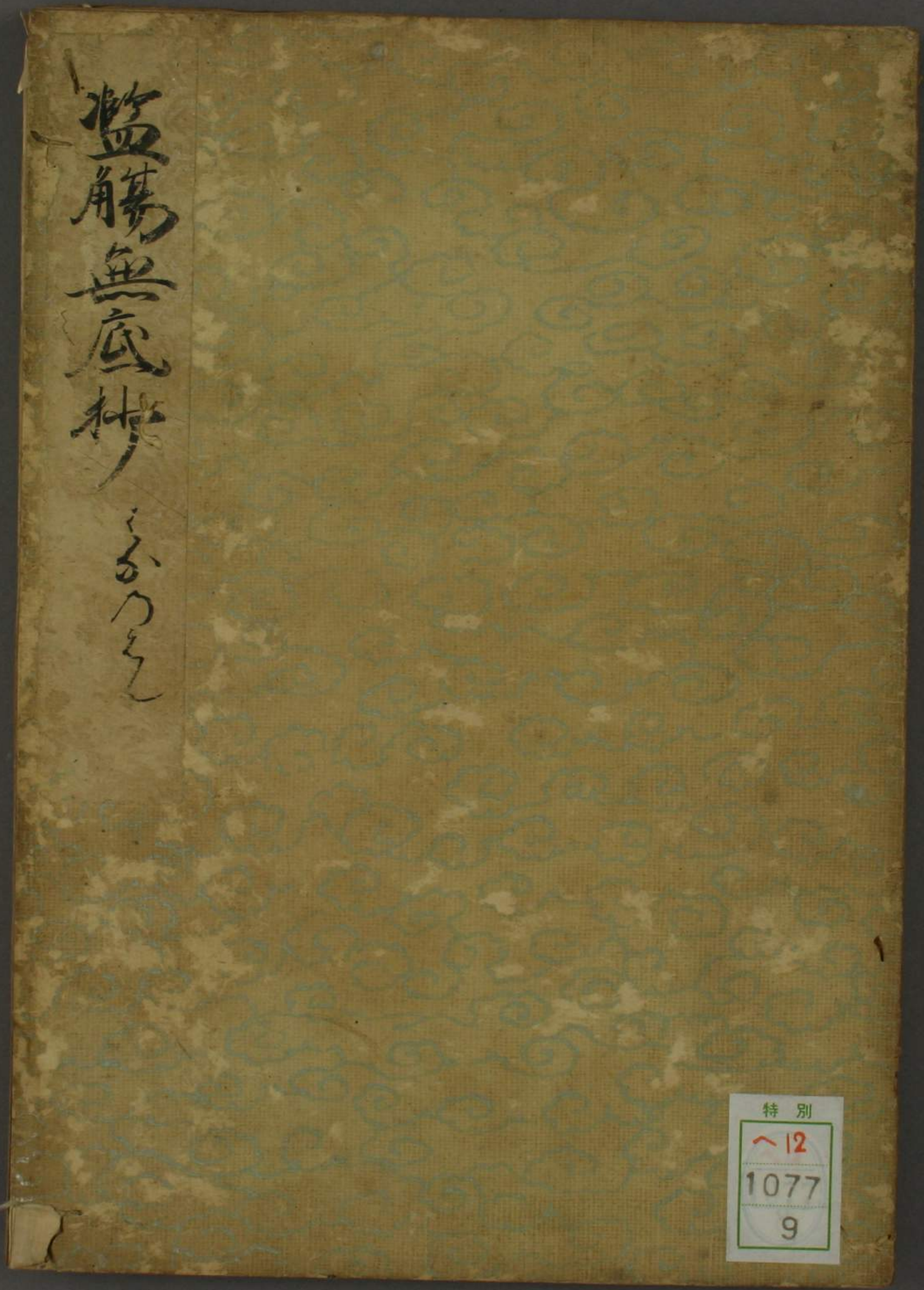


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



特別
~12
1077
9





利
1077
89



花宴

十九歲

二月廿余日南殿楊宴事

源氏宰相中將舞春萬壽歌中將

舞柳花苑事

其夜於弘徽殿細殿通衣大納言

臘月東尚侍是

取習扇事

翌日後宴事

||

源氏對面大臣殿之次緒之白苑宴

日事共々

三月廿五日二條右大臣引緒則

友苑宴

此日右大臣折友苑送源氏君哥之

々

右大臣以息男定位少將為使事

其日源氏著布袴向二條中事

始知扇之主事

川

右大臣六君乞

源氏与右大臣六君隔几帳賜答款

事

花宴 卷名 箋曰 南殿楊宴事

則花宴也

大唐牡丹 稱花 日本稱楊

櫻宴 花宴 卷別 不可為之

花宴例 白抄 委 義之

類聚國史可弘仁二年二月辛丑

幸神泉苑覽苑樹常文人賦

詩賜祿有苑花宴之節始於此

矣

苑宴度く之例雖有之延長四年
例此卷。お叶りり
文徳人

源氏 十九葉の春し 當官宰相中納正之信
已上秘笈之類

^何卷名付卷。南殿ノ栢宴あり

南殿栢紫宸殿

付本殿此葵角。あり是大略子創

より乃樹し。貞觀より栢うといふ

とも根よりより乃の萌け。と坂

上院守勅と奉てこれとゆり

枚葉再感。延長御記より那

列栢樹を以てりり天徳より焼

多りりけ。と康保元年十一月。

くらふすまらりり二月二月。

又栢をきそ之月。苑宴ありり

府より一重明親之家樹。西京

より栢。くらふ其後府に焼之。

每夜了了者也

花宴事

延英十七年三月六日御就之晚
既常寧殿看花命宴敕令吹
笛合一兩侍臣唱奇條唇還清
涼殿坐北廂奏儀保忠朝臣侍殿
上榻下施筵召大內記理平直內
御書所勅解由次官諸蔭播磨
權大極楷正宮文章生春潤善

規坂上恒蔭友原高樹木令賦春
夜觀榻苑絕句邦基朝臣當轄
千古同預其座理平作序子二刻
召理平讀侍况給文人綿又鋪座
階前玄上朝臣加下侍唱奇之召備
前少善行彈箏藏人所友原有
時吹箏箏讀文榻十兼彈比巴
保忠朝臣時之彈琴吹笙夜深信保
忠朝臣御衣侍臣息所侍之也以女裝

束給近侍管祿不酒者數人延
長四年二月十七日御記曰此日啟
前楊花感用作召文人聊用花宴
昨暮豫令召丁假文人今日遣
使召常陸太守負真親王在太
々々有所煩不彙申刻常陸太
守親王彙入同冠仰茲人立倚子
东又底自小舟二間敷菅圍座兩
之枚於小階南簣子安為親王納

言庭榻樹下鋪坐西面為文人座
西刻危衛門侍友原朝臣彙即
著倚子令召親王藤原朝臣未即彙
來侍座作合召文人即文章博士
公統朝臣氏了大南博文朝臣右中
弁文江氏了大南諸薩約内少書
所大内記栢正清以下文章生望七人
系入仙葦門著樹下座侍臣給紙筆
作令獻題友原公統朝臣進昇殿

友原朝臣府前給之令書題目
奏花房江增殊作又令上又書奏
書之柄繫喜日斜作以後取上為
額又作令探韻字右邊權少將實
額探韻奉上次親王以下就文臺
探韻作清平朝臣元方在衡維
時南木探韻令物進中座下時
內藏寮給酒肴中納言友原朝臣
系入作令探題其後作百樂取管
絃者四人時々奏音声以物謳吟
及子尅終以取文臺以公流節為
誦所讀詩仰文人木邊侍砌下令
傳其後管絃頻奏吟詠不止作常
隆太子親王彈箏中納言友原朝臣
彈琴及世刻給親王納言卿衣文
人給綿侍臣及樂所人木給正絹實
二刻入內侍臣退出

度々苑宴乃中、延長四年例探題

以下尤相似了了

康保二年三月五日丙子今日有花
冥事尋其由緒去正月廿七日在東
都楊樹植南殿巽角白砂埋根朱
檻連梁項月之間逐日鮮明上達尸
今留此座共憐其意自日中及夜
半詠古詩誦新款且以眺望且以
愛翫而已但此間行事具見陣記
已下畧之

十時外記大江雷言假陣座聊

記之

同三年二月廿二日泐記云今朝立倚
子於庭下即於花下座親王之口又
移座同樹小色奏經管行盪酌
亦召為車親王令假座令伴尹節臣
折花採之卿頭甚後延光朝臣執
盃立各令詠和哥已刻入內公卿未
退出

拾遺集 天徳三年三月の裏の宛
宴せし場所等あり。

九条右大臣

何れも花ふよむあししはし
あつてあせのまことそま

花
付巻を何として巻らむせり
何れも南殿の栞れをんせし場所を
あつてあせの二条のあししはし

宴乃所 母有の栞れ宴し
とあつてあせの二条のあししはし
花宴とらむよとあつて何れとあ
東花宴とらむ栞れと殿事とらむ
らりし何れとあつて何れとあ
これの私家の宴ありし南殿の栞れの宴
とあつてあせの二条のあししはし
云弘和三年二月辛卯泉苑吟花
樹年文人賦詩賜綿有卷と花

宴乃盃觴しとく源中表ハ十九ノ
宰相中内正之信

弄
卷ハ南殿榻宴ナリ

付卷ハ紅葉宴卷次年ノ去ク源中表
十九ノリシ花鳥ニリシ花宴例 祝儀

弘仁ニ於テ神泉苑有花宴事ナリ

南殿花宴例 村正康保ニ北南

殿有花宴 花宴時撰納例

延長十七年 延長四年二月ナリ

八

皮乞高ノ例ト並用ク付卷ノ

うけりや

苑宴有舞系例 天曆三十二在

之地下の舞ニシテナリト堂上ノ

舞ニシテナリト

きき〜記さつり阿〜り南殿の栢此亭
せよ栢のまゝ

養二月朔 弘治二年羽花宴始

延長四十七日 康保廿二日 栢上

南殿栢 葉秘抄 正業宸殿栢南

凡自草創之樹

貞觀此樹枯自根終萌枝葉再盛

故上院守奉勅守

延喜御記 群別栢樹奉記

養四常丁寧殿花宴時事凡

天能燒之為煨燼 康保元年正月

栽之則枯 重明記之家樹

十一月又栽之 自西京移之

此後度々燒失 毎季栽之

樹 平安後 堀川院御宇已來之本

南殿花宴 康保三之六

常寧殿花宴 延和十七之三

元
相意乃此門と

ハ

黄のり
十三行
略

伝東宮乃此つり

兼伝乃友つり 東宮乃朱雀院 秘曰

伝右乃して 兼音傳之

南殿東西

東宮乃伝東 伝右西十九

弄 秘曰

白のりせ給 糸昇泰をうりきり

字應削詩 採得其字 如此書之

箋曰儒者詩一首十年之平出懷

紙毛切韻之時如此石切時韻中取

韻卜後書(已上)

角んん

^秘韻字と一字つゝはくして侍と作

別(苑)んん

長とらふ文字

韻字と一字

英ハ一
山下三
弄略之
又
平四
日(リ)

宰相中將春とらふ文字

源の顔字春

真淳臻韵

後四御門筆花の時をよみあはるる

とゆてまふといふりりるる

自然の筆

ふとまひりくよとれり

弄

ゆきん歌中物

それよのさしとらるる

よてりん

源乃中なるゆれん

よてりんよのさしとらるる

秘 臆 *in a room*

秘 臆 *in a room*

美 口 中 程 の く の 顔 カ 赤 ク ぬ 一 段 と
と ころ へ の 鼻 だ ぶ ち ら じ

地下の文 *地下の文*

図書館 *in a room* の く の 館 へ 入 れ ば
つ づ け ぬ 海 へ 入 り

水 *in a room* の

相 意 朱 菅 へ 入 り 水 へ 入 り

く ね じ

水 *in a room* の

地下 *in a room* の

水 *in a room* の

秘 詩 の 地 へ 一 首 作 成 事 *in a room*
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
今 案 内 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

立出て探頭くつりつ時乃進退と云
ふ

年あつてつるを

^秘箋昇一曰

昇

まのあれ

^行所 御 御

常よあれ

箋曰 延長四年

文章生七人

の

^秘延長四年の御とつてうけとん

これとけの舞まう うれぬ

事とつてうけ

箋花凡花宴の御遊とつて

舞まう

花宴舞樂御

天曆之三十一二条院花宴

陽成院

同月十二日仁壽殿花宴

付身及舞一系行り

則 長等物と巻と

能比下の給へ斗と殿上り舞

いり 已上巻

付お給のあつひとさう 西へ行

の藍よりいもさうかきさう

まのうらひと所えつとさう舞

巻 天曆ノ例し 見太付樂花宴よ

彼有り一名ハ 天長宝壽樂と云き

以多しりあり考し 舞秘日

何

源氏乃此りみられ

舞秘 以前の巻れり名うらひと

長官かきし 行りせし

養秘 井蔭院舞と源入水あらし

け舞の長官の物のまゝし

源中表のしつきの舞とものごと

神入とととら 何翻 舞神

一あまをし 記りし

私之行舞のしつきのしつきのしつきの

養日花宴日殿上の舞のしつきの

しつきのしつきのしつきのしつきの

あまのしつきのしつきのしつきの

あまのしつきのしつきのしつきの

尾のあし

養日あし日始て尾府とうきち

養日あしあしあしあしあしあし

あまのしつきのしつきのしつきの

あまのしつきのしつきのしつきの

あまのしつきのしつきのしつきの

養日養和時成康親と合ふ

笛舞於信涼殿前能く若僧感涙

中得りつゝとそし

紅葉賀の深のこゝろみれと何とて
あそびとてとあそ

柳花苑といふまじ

篋并秘け樂上言の舞ありと今

新絶

何舞園云女形 如若祥天女舞

躰 予赤く 静く

波濤門傳正持来

篋中云大唐いん人ありとる時あ

〜〜〜 樂と能りて葬送

時これと書す〜 柳花苑も人

乃葬送 作りタレ樂ナリとて能て

見これと書し書ありし書書らと

て棺槨といふとこれと死に

蘇生〜〜〜 書れ〜 書乃樂

月や

とく

秘苑之

秘苑

の事

秘苑

内秘苑

の事

御

秘

苑

秘苑

苑

の事

賜御衣

延喜十七年

延喜十七年

の事

同延喜四年

文人の綿樂所是猶

花宴、舞臺のありし例のありし

堂上舞の例のありし

上座のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

舞の例のありし

多し文人との潜下よりしりて
海頭すべし 養日侍の作文と云ふ
侍といふことありやうしりて

源氏の君と云ふ

養日侍と云ふことと略して
為し 秘日

かしと云ふこと

養日毎日秀逸なる所を感す
とて海頭ありて 事と云ふ

神一統行ちりてと云ふ
所と云ふ所と云ふ けき外お邊
絶句の侍人の侍 亦可有歌字綴
歌字綴りて所あり侍所系絶
えつと 其意よ歌すメの序了らふ
うかたうと云ふこれありて
又一中侍所もえと云ふと云ふ
あり侍所の侍所と云ふと云ふ
よむおあれと云ふ所ありて

身又秀逸と感して是れと何れ
丁人よりたつとあつとまゝに道はるす
の青表紙削ぐ也

私云是の海師と云ふてあつと
海すゝと云ふと云ふと云ふ
関事、宗紙えと云ふと云ふ
すところ也

くもく

秘 毎句秀逸の紙

かきつりありあは

秘 孝子の地や相違れしはははは
も係り君と先りしはははは

中宮此巻のと云ふ

秘 中宮の者つた(其の女師のつた
あつとあつと)と云ふはははは
てはははと(其の)

あつとあつと

あつとあつとあつとあつと

紙の
とあり
紙曰

中宮の紙
とあり
紙曰

かき

葉日有つたのさ

のいふ鏡のなか

友意中

大いなる花は

いよとあはれ

らに^秘いふは

いよとあはれ

あはれさう

あはれさう

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

いよとあはれ

わが好む水石のとりよせありて
とて（草子の地）（昇日）
あつてさうして

定家自筆本願字あり
私云延長四年 荒宴沙北 高二列
入内侍長退出

よのくありて 何合散 箋 退散

かきつ物入さるるら

^秘王命のつるつるのうへー 箋日 荒日

能ありしよ 何証然 亦有百葉

あどわーととのあーさるさーと
あーあーさるさるさる

箋秘中りーとあひさる

とてとん

相つたのとりむら

あそとの

箋何 細友 忠散つ統

秘統云 漢語抄 廊の字とありり四統子

昇
私書

廂とりそ交と返ス 是も其心

と乃らら

篋河弘す交。南水へ細くととりた

ふ戸あり 是も水より舟とてし阿

くふ戸へ 格子遣戸へ 秘日

花

秘りそ交の廊へ 廊の舟とれり

女御の 秘弘御交

あこれくうし戸も

篋河くうし戸よくさうし

くうし戸よくさうし

くうし戸よくさうし

もさうし

私とあくのくうし戸もあまはとの

これ戸よの各別れ

在中乃のあまら

あまら

^秘世間乃人のあやうらむすのあはし

関事ういふ事おれまへし
事しうりし海はうり事しとあはれり
或抄脚記のし約を海ら後のも
しこいさしうり母らうらな
と極の用なうり
くさうりしと
是より勝丹表のし海

おろり月表。

養秘これより別名と
こりもせはくろりしとあはれり

おろり月表。血海とあはれり
伊初とあはれり

と上養

と上養
と上養

并

業秘けり又字違てヨム款のうとねス
こましくいふあふしあつし

此約奥よも思しごと

わみらいつき 勝の約

何うともしき 海の約

原
うぬちのちりともしき
うぬちのちりともしき

和
あつしこましくいふあふしあつし

らきりしつしあつしつし同夫文八と

六日入月一島案名あつし

付勝月案の形案とあつしあつし

共入月のとあつしあつし

二月廿日此月入とあつしあつし

あつし

業口入案とあつしあつし

そあつしあつしあつし

のちあつしあつしあつし

さすの源もてゆゝとて勝の志

（巻目）

さすの源もてゆゝとて勝の志

^秘 是より勝の志ゆゑ

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

春の経書ゆゑとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

^秘 源の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

^秘 さすの源もてゆゝとて勝の志

さすの源もてゆゝとて勝の志

おろしなれしと候し

野月堂
くまの世のしづか

并

—
—

築日あまのしづか
志のふらふら
まのまの志のふらふら
今このまのしづか

名譽れ作者

あのしづか
今

并 秘策 大略 同 義

とり
何

—
—
—

其の七十一
源氏物語の
其の七十一

| | | | | | |

範

| | | | | | |

秘
源の初秘これいさうりしとあつらひ
けりさうしてあつらひし河海の流を
可成 花鳥のさうり乃事とさ
り

兼口源初 花鳥のさうり
兼のさうりさうりあつらひと
も我もさうり存分アさうりれ存分
りさうりさうりさうりさうり
初 次 年とさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり
や花鳥のさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうり
さうり

兼口 秘ノ兼 子とさうりたうりさうり
の字不消也

兼口花鳥のさうりさうりさうり

源

いしりうと藤丸海らりしはるる
うさうしりう色しきふり

昇

|

|

|

|

秘

河海とさうとあらんれと藤丸大
とは用とさうとあらんれと藤丸大

しきいさ

葉丸の海らりしはるる
いそれと藤丸とさうとあらんれと藤丸大
さこのの丸のうらねと(丸の海らりしはるる)
あはれとさうとあらんれとさうとあらんれと
のうらねとさうとあらんれとさうとあらんれと
行と物とさうとあらんれとさうとあらんれと
て名のりしはるる

秘 藤丸とさうとあらんれと藤丸大

友の情をよみしるるの情のあはれなる

箏の音に似たりしるるの可憐なるの情の
世のふたなりしるるの哀れなるの情
初とて似たりしるるの情

うららかにうららかにうららかにうららかに
^秘うららかにうららかにうららかにうららかに
うららかにうららかにうららかにうららかに

箏の音のあはれなる

とて思ふ

箏の音此の初よりうららかにうららかに
うららかにうららかにうららかにうららかに

うららかにうららかに

うららかにうららかにうららかにうららかに
うららかにうららかにうららかにうららかに
うららかにうららかにうららかにうららかに

うららかにうららかに

秘 弘徹友のうら

あまのこころいよあまのこころ

^秘 与言そりて後世のこころ

一 ^荒

一

一

一

一 ^弄

まりの花

深の心裏そのはまのこころ

集 ^秘 妙の荒宴のは朝みれいこころ

ありこころ

おのころ

^秘 風り〜 深きこころ

まのこころ

深のこころ〜 (世のこころ)〜

あまのこころ

はこころ

何事

夕ゆふ〜ゆふの夜よ〜ゆふの夜よ

夕ゆふの夜よ〜ゆふの夜よ

源みなもとの夜よ〜ゆふの夜よ

と夜よ入い〜ゆふの夜よ

入い〜ゆふの夜よ

女おんな脚あしの夜よ〜ゆふの夜よ

女おんなの夜よ〜ゆふの夜よ

夕ゆふの夜よ〜ゆふの夜よ

夕ゆふの夜よ〜ゆふの夜よ

五六ごろうの夜よ〜ゆふの夜よ

ううの夜よ〜ゆふの夜よ

秘 雲うもの夜よ〜ゆふの夜よ

付つの夜よ〜ゆふの夜よ

父ちちの夜よ〜ゆふの夜よ

中なかつの夜よ〜ゆふの夜よ

右みぎの夜よ〜ゆふの夜よ

石いしの夜よ〜ゆふの夜よ

夕ゆふの夜よ〜ゆふの夜よ

弱とすさりぬる

皆石を心とされしとていふに愛する

美しとていふに心は

中くこれらに

昇

一

二条太政大臣

此の御いしるる

弘徽殿太后

此の御いしるる

孝徳天皇の母

御宮小方

此の御いしるる

致仕大臣小方

此の御いしるる

五君

膳所夜侍

此の御いしるる

おの春宮女

葉秘付懸月夜

たのしみなるも海さうし

うらやまをけりあうもいづれ

さくしるもえりしよ

秘
女乃と海

とあよつと人あ

け
言うらやま

心と海さうし

草子花しきりつりく屋りけりてけ

〜とらり〜よちの行海乃心

や

海りのらさ

可
葵よのらさの心

色

一

一

昇

—
—
—
築田河ノ洗物ノ——
苑ノ養育

その白のことろんれ事 井——

築秘 後物沖野

も
—

海ノりよと

秘 海ノの可作——

ふらつたの勝

秘 ぐんつらひの——

かのあつたてわ——

築秘 有んはれめ——

——

も
——

勝力表の表

ふとせ——

あつしつとありの月う縁
あつしつと

御まへよりゆきて

養秘海の退出のみまう推えん良
清あつしつとありて極極とや

并曰

あつしつとあり

養苑中よりきのお疎い玄練門乃
あつしつと

あつしつとあり

冥の物たるのあつしつとあり

あつしつとあり

空位女将右中將并あり

養秘海の兄弟あり

并右大匠乃息

あつしつとあり

養秘海より退出あり

あつしつとあり 海の丸

ら〜あ〜

^秘右大臣の御給へし

のり〜あ〜

よ〜ん〜あ〜

^秘父〜思業〜あ〜

臆のさ後海のふ〜あ〜

よ〜ん〜あ〜

あ〜ん〜あ〜

あ〜ん〜あ〜

いん〜あ〜

のり〜あ〜 海の後

是のり〜あ〜 海の目裏〜その五戸相

三連〜あ〜

のり〜あ〜

^秘業の姫君〜

よ〜ん〜あ〜

あ〜ん〜あ〜 姫君の事〜

給へし〜あ〜

日影のあられ

非君とてはなれ

われと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

あはれと居てはあはれとあはれ

花より雲より子石書「中」
祓とあり 青表紙の桐の
とつらつと用

凡て扇と字ともめきとあり

半習巻。髪とみきの扇とあり

あつらひ

信女細言枕きのみ 白り

ときあつらひの扇の字

中よりありて

^秘 檜扇 抄より

祓とあり 青表紙の

あつらひ とき

つらつと用

あつらひ

^昇 考なりおき

あつらひ

あつらひ

あつらひ

秘 前はおろしれきのみ

源 小舟からぬららこすれ

秘 海の平らの中より秀逸し

物し

花をのぞきよ

秘 秘ノ善ヲ信ス

筆口明くし

り染をいり

海へて

心よりせよ

西を月と

也下ろし

そのく

片乃新

は世の

まの

ま

平の

吾水傳ふり奇丹 其の丹の行
来とさうめしう神事の—
け年とさうしてよと物さし 源中と
と物さしと年とさうしてよと
さう後めとも源中とさうして
と文念の事とさうして又花事と
と穴とさうして教とさうして
とさうして

うさうさうさ

葉口波扇よあはりきさの

おりのあはり

^秘夢よ

うさうさ

葉 秘葉よ

あうねあはり

^秘石さうさうさ

おさうさうさ

いりそめありてふくし養上り
ありしころあつて人あ的事と
いふしころあつて二事たより
大あつてあつて事とらうぬ
西白

つま

養上り對西——行そぬい海のつれ
い

いり海とい海といりて

^秘いりしころあつて事とらうぬ

いりしころあつて事とらうぬ

養上り 信る事 貴川 律多

養上り色の養

いりしころあつて事とらうぬ

いりしころあつて事とらうぬ

いりしころあつて事とらうぬ

いり

いりしころあつて事とらうぬ

弄花弄
為の夢
打とけぬ
りりり

あやさうらふ書と若人の曲とあや
さうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

^秘 夢よれんもさげぬとありんや
花鳥あやさうらふ書とあやさうら
うらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

私箋関のあやさうらうらうらうら
乃箋と月らあやさうらうらうらうら

紅梅の大臣此物一花也

如くころみりうらうらうらうら

うらうら

^秘 白まかり

うらうら

夢のうらうら

^弄 け初一有月守未見く 自西

恨ての後人乃つ書くうらうら
てう福ととあやさうらうら
恨て後あやさうらうら

下りあきさつしつとあましつうさつねは
多のそあつむりふとほのゆふたゆく
い川舟下ゆふ 山と舟

枝乃さゆくあつさあまし香と

^義 枝あり 英色香一りふ何れ

う此りあつ入る紅乃さよううれて香あん
白赤梅しつあつわつとつあつあつあつあ
しつうううあつあつあつあ

^昇 園あつあつあつあ

^義 園しつあつあつあつあ

^秘 梅と評しつあつあつあつあつあつあつあ
しつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
くしつあつあつあつあつあつあつあつあ

^河 紅乃あつあつあつあつあつあつあつあつあ

しつあつあつあつあつあつあつあつあつあ
新垣 秘昇 義

名載る

^義 とうあつあつあつあつあつあつあつあつあ
梅乃評あつあつあ

山心とありしる

白文乃巻く梅紙賣く一紙あり
みくあり

こしひはこれわあり

白文内り山宿直あれはてい
君とやうとあり

東宮おとえまのす

藤原友一印梅大長乃こつてあり
しつとえあり

ふかとはつ

白文の神乃香紙の巻く

ころくれれありし香紙の巻く

宮乃君れ事く白文不審く

つし義辨

あすす心ありん人りし

み君の初 美子細い存あり

先志の巻く

いろもかすの巻くやまの梅く

む位明集

志まゝらん人もみりこ絶

あゝあゝ秋の月とむと紙お折ぐも心あはれ

志れらむ人なりん秋のや

秘昇同引之河之伊り天奥入

哉此新行不相叶

あゝあゝ志れらんとはとるり私心志れ

らんとい新或があらん 昇花多ノ

引方とも載

わ、方、は、り、の、思、は、り、の、思、は、り、

秘

紅梅大匠はも欠子の中居と白へ

てまゝかへ来りぬあかき也 兼

紅梅乃心の中居 欠子と白へて思

も心白へて思の宮乃居りとも

みま

思ゆらんあゝあゝこの字清きあはせ

あゝあゝこの字清く思はりあゝあゝあゝ大

納ま申ノ君とあゝあゝあゝあゝ

思ふ心

秘

白文此の富乃君より母くさひ志
み給たり哉

昇

字ありせまんと 白文の心富乃君
とと思ひまへ父の字あり給り給へ
と云いしとあやせ

私にありせ給へと告るるありの給
君乃事と字ありせまんと云ふあり
ま此君と別りしとすといふと昇
私に昇の義給りしにせりるを其心給

こゝ次り私と云義の一義あふよ
似たりけし時ありしと云ふといとノ
字得えあり給り給へといとノ字も得
け義とありありの義あふより従前ノ
義ノ義可然や又昇の給り給へ
るりめさどいとノ字得えあり給り
へどいとノ字得えけ義あふ

秘

所より事けさやうにもの給ひやす
文乃君より心あふ少へし中君あり

とハげぎわつあとのぬかふらふせ 美的 美

た紙さうりるやうゆて

美 ありあみぬくあ待て

七白文 くののそりしをささぬ人まがらうりさ風の

秘 ありりくとささまーやい

美 かの事よとさーまうり

頼あつぬまハくぬのちあつしとされ

くまらうし

美 ちの香りしをささぬあつとあつ頼

かぬーしぬあーぬくあ

さそ 秘 ねいぬちあつれしに

大臣かろあつせめてまつてくらひ

く人まらう紙さうりあつひ

あつて

美 宮の姫君は御事とい紅梅さる君

通ーく人よ白文乃あつしとさう紙

くさつて

あつれしと紅梅大臣母水方ーと志

らせしやと

しうしうらびとせと

^羊ての字濁志しせしと

あの君をむんしと

^白白宮を東乃むめあしと

あやと

^美い君を紅梅のま君大りの字は白文

へしとそしつりま君をい君と

同腹乃兄才也のりしと

系復や中君を別腹めてと

しと

しのかの姫君ハ

^羊女御中君は種一乃他腹の兄

中と

いしと

^羊宮乃君をと

あかさ復と

かひあかさまと

秘

若君乃ら海よりけ宮の若氏白人系
ら彼くやとてや也 昇義

秘

若文乃西よこのいとむやうり
漂京復乃女沛と寵しとや也
昇義

お形 思入と

若文一と文乃若氏系と彼くやと
らいし也

義

若公乃欠の兄才乃系り孫の甲

事あれとてい堂の姉君とてととの
りめとて若文乃系と彼くやと
とて也

この宮とてり

義

け文乃姉君へ白文のゆ立入もあはし
とてゆとていとれのはわとては
君のこ海よりとてくもや也

秘

あまの所のゆりあはしとてとてり
父入とてとて也

善
んせめて申ひるしつひすてもゆか若若
のこ終くつり能合ゆ也事あまいま
つすふまてしとて中表と句とのつ
ハ若志のあらわとさのこころからて
る思くわて

秘
福とまくりの終つふり肌

大信乃と葉

かまこぬ終つるゆ也事紙つり

友のねくもねくつ見たりは

秘
夕暮く紅梅大信の足くてもつりか

昇
あてを實はくもて終や也

右乃か
夕音 九女一

善
紅梅ののそりハ実は紙もてま

ゆよは也事とくハ信の以終紙

又明のて奇くもなり終や也

何んせん

何
化人 昇
越人 童子

地心 昇
異意 万

志のてまめらむらぬりんと

白富の風流ウ化ぬりんとりむらうと

むら海と女理り貞法とそぬじ

ハ心取かうんと也

志のてまめらむらて

何
後言 じりウゴト

クもとりのせもふよ又

若君今日も第四あふ次り又操

しり白ふまへしり布みあぬ也

しり白自覚し

七白文

くふの書紙あがり子座にまめらむらと文よ

りりや人のとちりん

秘
あまも云界しりしりあしり

美
花のあしりいふつ花あしりまれと

くれとえあしりなをちりん也

あつ時を文りりりあしり人あしり

るああしりしりり紙とせを乃

まひのりも也

行く路も草す

美

紅梅の心

心方もうそまひて

秘

中に柱く

去まより退物

四つりの事

美

心去文れ御事けりりるる物迄く

わが君れ一転よのわして

美

白文よりう免給ひ一時の事く

紅梅大石

いふれありへる君の神もまはむとえか

らあなぐとやらうん

何

本の香く 百葉 女人とあり

秘

白文の天然のありひあふんしとま

ませい梅と白ひくまふんしとま

中君紙くまふんしとま

紅梅捕つ

いふの香乃あふたにらる紅梅乃む

いふ白ひれあふりわらうか

美

えあふりいふとつくぬの心何ととい

くまわたりえの者の字は或整乃
字又あゝぬの字不當行と勅し是の
縁たゝぬ方々へあゝぬハ葉取分れ
えあゝぬとお祈り一祈く
私
えあゝぬをえもとりて千とくれば
本丸

肉義にひあゝんと

紅梅乃きくわくのくくすあゝぬ
さすの志久よあゝいきせやうれ

人秘ちあゝぬとお祈り

天然の若君れあゝいと人のしを
えのいせむりやうれ

えとけきまゝの心推量あつてや
水の音うりあゝぬ并

ひんまきくはすさりやうれ 并 志字ん

年よんはん。用うりいせれ

義
真のうりうりまゝくはうれやうんや
うりうりあゝぬ

あゝよ西せしそこわあひのし

昇

水方の詞もアア西せしそこわあひ

あひさひうてはつらうつさのやあひは

ふせ火

あゝ梅乃むせしそこわあひ

秘

紅梅大石の詞もアアあひのし

くせまのしひ

茶

花まうらひと云はしあひ又一向

うけ字をくメまうらひし

ソん女とくうりあふがとあひはつ然

あゝわ

源中納言

茶

夢人くくそ一人番くそ夢はす

を一向凡人くくあゝん色左の宿

執持し火

あゝむ乃春をまし

秘

梅を天然奇持るうあひのあひ

源中納言あひひうりソいあゝ始て

昇

くやぬの天性乃奇持たりと云ふ
ろよりむの程性くとも批判す
又くやぬの天性より奇なり
と云ふ

む

梅を根より切り
深中細言よむ多しむり
りし来むは白ありし人なり

この文をよむ

糸

白文梅くも——まよひり
昇

花より人なり

養白宮へ中若紙ありん
あまは何より先白文の事
いひおまへ

文乃西より

む

紅梅の東乃始文此

糸

宮乃君の事

美

年齢も物おひりくは

さしむるを家はく

秘 け宮乃君い父文まう一皮うまより
てのをみず人もたうそし紅梅大信の
所女のもんも戸叩りうりち連とい
白文をわねうらうり文の君よはらさ
——移んとうちあうとせ

文いほあさいのうに
何 母さといふも思ふとちうちう耳と
ちうちう縁あふやうたう
まくとと云れ

秘 白宮をわつちよは母さいふうり
昇 ちひまうと

祥乃字ふりけく白文いふさうら
今——と思ひうらむ時の人を紅梅れ
久あまのとりそあつちう——
白文のいふ

大納言君ゆくちう

秘 紅梅大信あつちうりうり
とちうけちうと

心はくくはくみあり

美 水方乃んゆ也

かむのこも葉

美 かくらりのこ白乃又の事ありまう

責こ葉こりあえ

まきし乃ゆんせひて 白文のゆ也

何ういんれゆありさ皮

秘 水方も然く責事しふそひまうり

おひゆんせひゆ

丹 白宮乃事ゆふ

八の又れ始君りしと

何 宇治八宮 相重帝 才介子 共アゆ文 通宇治

宮中君事 総角巻なり 但権中

マトリ 宇治中宿あり

昇 宇治のうんく乃宮れ始君への事

権中まよあり 其時の事とあり

あえりまうり 志まうりまうり始と

あふ橋始りし 一度也 権中巻し

あり混然せふを極くはさるるは初
乃時々の推本巻り同封と別く
〜くはす

秘

宇治の中君の事いはいわりの事
難乱より志きりかひいふ事推
本をよあつたり

善志きりといふて推本の事あり
分是と年紀難乱といふり別
傳の世の先代乃事と末代乃事と

いふはあつたり

まあやういふ

秘

宮乃姫君の事いふは
きん事いふとつたりは

かゝる事いふは

弄

白文の秘といふは

母君をいふはにさういふは
いふは

秘

母君時々いふは

養

志のひそと云細りううとまきう一は
事ふまはぬく徳意ありう一は
しうるまをひういやくらふかとい

業上はくもてをくはくはくは

とくはくはくはくはくはくは

とくはくはくはくはくはくは

とくはくはくはくはくはくは

^并業上佛法をくはくはくはくは

てくはくはくはくはくはくは

おれとくはくはくはくはくはくは

ぬもくはくはくはくはくはくは

かみとくはくはくはくはくは

紫上れぬくくくくくくくくくくくく

せまきくくくくくくくくくく

井

いのちかふくくくくくくくくくく

とぬ子あくくく

秘

源の綱業よりかきくすいけいふ

と清子をすくかく源の我身は

くくくくくくくくくくくく

河

千公くくく

久芳くくく

子はくく

秘

夕霧清子くくくくくくくくく

くくく

くくくくくくくくく

業上の事をもひ出ゆくくくく

くくくくくくくくくくくく

れぬひ出ぬや

いたくくく

け

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

秘

川弁いぬくくく

まんの綱ういさうしものねひいてぬ
うらうらうらさくぬら妙なり奇跡なる
万端愁傷の心中つひも解りけ
はさうりねうのさぬせ
^年けり言語なりや上り綱う
にせり事ハいさうしものねひいてぬよ
とありいさうしものねひいてぬよ
而も奇し一由名別なり奇妙
さうせ

私事奇事うらうらありせ
まこといさうしものねひいてぬ
是をいさうしものねひいてぬ
うらうらに一字らひに取
妙なりり

^{源氏}なまを人ともあつひの村ありぬき
てやさけりれりかまてきぬ
しなりの美なれりりありぬき
さぬあり

夕霧

不^レしき人の名^レつてな^レんあ^レ乃^レ花
梅^ハい^ハま^ハそ^ハさ^ハり^セ

并

た^ハま^ハ人の名^ハと^ハま^ハより^ハつ^ハる^ハけ
て^ハま^ハ乃^ハこ^ハあ^ハく^ハと^ハつ^ハけ^ハる^ハん

い^ハあ^ハを^ハり^ハて^ハぬ^ハや ^並 ^心 ^中

く^ハら^ハえ

秘

君^ト業^上女^成い^つり

女^房ふ^と子^地せ

た^ハせ^ハ世^ハ

秘

業^上女^成い^つり

い^ハあ^ハり^ハい^ハり

秘

女^房あり

い^ハけ^ハの^ハら^ハと^ハれ^ハり^ハあり

女^房と^ハい^ハり

何

時^移ま^レ去^レ集^立氷^来毎^春之

日^冬く^ハ東^池蓮^夏用^宮槐^秋

店 ^{長恨} ^{弁侍}

河^海に^時移^ま去^レ ^是 ^ハ ^蓮

幸^ハハ^サナ^シ共^知乃^ハ心^ヨり^相あ^ハり

依り川之根

いよあふりかし

何

かたしうそはゆりりしきり人の

え

身ういふに多ふは後ありん

何海の川ありては八不相違なる法

照輝師五會讚云一池中華

尽く由義と想乞は生人けり

かみひあふり奇多(きま)

秘

花多乃奇を想(一)

美曰

奇

蓮の露とくは流くいな共うはこ

えーしふはゆ一妙なり 乾鳥

み今撰

をくくくの一のくくくあやうなる

何

我のやあわれとせしん日影の

なく夕にけりやうしおてーこ

秘

川奇日ひりりのくは流くけり

我のやあわれとせしんのをかり

何一奇

私けりたしを川方とけりてか
をり綱之妙也

原

流

くしをりあれくすな乃日

秘

日映と出といふ海井海

わら玉抱りれくしぬり日

映さくしなふくすくし

かし海さるりなくと

あや

弁

かとうまをわたり又綱

を多くなくとあり

何

日くしを多く出乃都すといふ

好撰りハ輝を多く出もむ

夕及りかろうして

何

夕殿宝花思情然

杖灯拖

尽末能眠 長恨初

^秘楊貴妃の心あり

^原うらを〜ぬ雲を〜して〜ふ〜〜さ〜い〜

^花葉落木暗室和夜 ^{朗評} 美

^秘我乃好〜さゆり節もなれと也

^弁私室の昼夜を〜ぬ我も〜と盡

夜の免別なれゆや ^{同上弁}

^フ七月七日ま〜い〜うり〜海半〜

り〜

例年〜うりてお〜い〜

そ〜也

か〜あひ〜う人も好〜

^河金谷園記云七月七日夜洒掃於

庭露施机庭菓酒脯菓散香

粉於庭上以請河鼓織女言此

二星歡會夜也俗人候之或見

天漢中見妻〜白氣 ^{盛石反} 光

耀五色以爲徵見者便而願乞

要 富と壽と子

たかろこのを歩はせのくそめして
しうれ乃をり露ををこいせよ

あまは雲のつらうまてしつる露の

上はくわし時の心は年しうりせ

同 春の雲井つらうのくえなる春

羽のくれのたをの露はくか

をれすさけりとなりしつる露の

わりれとを終めもろく出さるるを

風乃為さく年あすす

井 越をれたまれもめなりけ

萩の上風萩はく露

何 いあれさるもあり

いまてくまきる月日くせ

何 人の身もあつておと今まてよ

くても命あつせりくそまれ

秘 美 同列

ゆり日くかしくもなつてもあて

可

正日とハバ十九日といふを但是は周
忌也いつまも御幸の日成らば

齊イモウ 齊イモウ 齊イモウ 齊イモウ 齊イモウ

秘

おししてハバ十九日といふ十九日といふ
あしを周忌といふなり

美同

よわれ侍おこたひひうれてうり

よひのおこあひを初夜

侍夜ありて 御幸水

中お若

若らふぬみいさきにもなれ物成り

とハ何のこてといふん

可捨

我力うはねおきよものついでに

昨日といふていぬいふりきり

私うきりあまハなぬいして

有衣そてあれおハ海ぬり

道徳類

原氏

人らあ我力もきりなりゆきはの

うりあう海ありきり

我力ハあうりありて海あり

あついで中將表の奇成翁よりか
きつげぬるをとりて由らしめて
源の文くんたよりせ

くく其ひひる菊

井
け故事一勅

^原日らととにまきわー菊乃羽衣とを
とり使りくぬぢりれ

^{河奥}あつらよてまきわら菊の白あて

らりの世よならみくぬり

^{好標}きらよのたまきわー菊乃露

らりからし物しちりけきやと

なほ美あ

ぬくくひりく地おりす

秘弁 美因川あ

^河津五月いりときぬ ^{津五月ころの時}

く神ひつるゆりをぬりてい

やまのをとらる房のつえきも

美房のけくもくえんえぬと云 ^秘

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは
みえこぬむのゆゑくらねえ

馬使を方きしはとらせ

け弁まきの名せ

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

ときかろくしとら

け弁のふハ蜀方士の揚貴妃

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

士のま名や馬のつとこととや

まゝくといふも彼方士の塔落

ときかろくしとら

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

おんまゝとかりよまふろくし夏よりは

源宰相中将
童上とて而名

秘

童として昇殿

後仕大臣男

山をらの以中ねる人少将

以中ねる男 經傳
齋介おさ男曰

秘 雲を存乃中よりあつて

とこよてあをどりりらすこ

何

小志 青摺 山藍 摺也

元

十二月中の卯日新葺會辰日

その節會より公あおとてこれ

ぬ小志といふおを着す付たり

一代一交の大葺會とてかくのこ

〜

いあ 包あや〜

何

し女まこ〜む〜ぬり〜

とあす〜こと〜

筑紫のみそん事〜あ〜

秘

け〜り〜あ〜り〜又〜り〜

事〜

弁

あそん女の事〜と〜り〜

〜り〜に〜え〜り〜を〜り〜

捨めんとせ

^優ふ人よこのあかりのさきさき日

ひきそーらてらーらーはるる

^秘日蔭のうらうらとせてその残る

月日れりあまらる

^弁日蔭のうらうらとせて日月のひ

るまられらるとなり日けを

はらうとせとととととととと

あせ

海に世をうり流るる

海

^可聖人避世事初後と先蹤不

勝斗

^花光源氏 漁舟事 け廻るも

うり

^秘漢滅沈うらと道一活る事

字法 宿事まらうらと

うり 集

やまのあしきりしきりや

秘 美 弁 団 列 弁 日

何 やまのあしきりしきりや

あしきりしきりや

きり

かりしきりは

秘 けしきりのきり

子とあのみりきりきり

何 けしきりしきりきり

けしきりしきり

私美弁 団 川 け 弁

きりしきり

弁 清少納之枕草子 けしきり

けしきり

けしきりしきり

何 清少納之枕草子 けしきり

我白頭 徒念君 唯将 老年 涙

一灑 故人 又 示 天

元少甲文集序文集一九八

義國川之

便

志ての山よしあし人をとまよふとて
とつてもれまよふ

何

志ての山は四天の園やし
女音通しすりせ

十王經文に死天山門集鬼神

花あしハ第汝事也

うつふの物所菊れえん

私義分

古の汝をうくもゆひ

と東をうたせよと

えしかの

策の事汝と女房ふもみ

うみよ

こり世あしきさうぬら

義 志汝の事

志汝のぬら

花

志汝のぬら

て策上れぬ又ととと海くしては事
ふれくくくをけおせとあり
三本と海の子を

めーく

何 同くくく 武云女

秘 女ーきや 弁義同

花 やしりまの事うもは網あり

倭 うさつあてみるもひかーりーか事

おれー雲の網とをふれ

秘

かきあけさてし

策上れおれーや井乃燈とふれ

とや

此佛名しーりふーら

何 光仁天皇 宝亀五年始く

見官来事 韻 自十九日至廿一日 武撰吉日

武天長七年十二月始佛名

武仁明し 承和二年清凉殿修

見觀格云 太政官府應行佛

黄心佛名經
莊嚴劫千佛
賢劫
星宿劫
以上三劫あり

名懺悔事

佛名經説

並礼一切十方三世諸

佛三塗苦息國豐民安

以上三義秘

名くらりのおまじ

何 錫杖經曰 錫杖亦名智杖 欽顯

聖智也 又名德行功德年故也

佛名夜 智 後夜御導師著礼

盪唱佛名畢 錫杖 又才三夜

錫杖後 病人 支取内侍出綿被

於導師弟子僧土 美我之

ゆまふらういしを

秘 佛名の導師の源氏のり未談

行ぬぢや

佛乃こゝろしんまゝこゝろしん

源のなるとは世とまじりしよ

ゆいし

まじりのまじりとおまじり

てさる月あり

何

禁中^何の佛名才二夜被著^三拍利士

才三夜内藏寮酒肴暮^{カサニ}参^三美

死

禁中^死佛名の才二夜^一拍利士の

勸益といふ事あり昔右近中将

和氣某以^二拍津國拍利士^一庄寄^三た

近府官人の酒料^一ありて^二あり

これ^一より^二佛名の夜^三に^四近^五府

勸益の事あり也^美

とて^一あり^二あり^三

死

延^死長十九年佛名守師や^三拍津師

賜^一の河古

天曆^一二年佛名^二守師^三淨^四苑^五之^六礼

同^一白^二峯^三寺^四給^五佛^六衣^七美

り^一ら^二の^三や^四り^五く^六あ^七り^八り

秘

白^秘頭^一夜^二礼^三佛^四名^五守^六師^七の^八心^九わ^{一〇}り^{一一}奇

け^一り^二の^三物^四ら^五あり^六く^七り^八美

秘

朗^秘詠^一か^二し^三な^四り^五く^六り^七美

集

くらすての命も去りしすし雪乃らり
いりほく梅をまよきしし

秘

久ほくハ河ひくもせ

まよやまはまきししすし

あや

世乃師

子世乃去みくしすし

わらう雪しきもにありぬり

源氏を流して我乃うありぬる

しつるや

何

三乗右大臣集延壽十九年十二月

十九日乃乃佛名の清守師

て雲晴法師すしりて約きおる

乃東清経をまぶし共

いされく竹守れを祭して清

くきしきしきりれきおはわ

てき奏しきぬ

雪乃らら山のぬりし乃雲晴

えれふむをちりしし

清きるりこれホアと雲始り流るる
とて

あらしの如く去とみりとてうる
さしりゆやまししん山れし雪
貫く集屏風寺仰名乃あま
り空師のるる人くあひ
まりて雪梅をりてあうぬ法師
おしこをりくらてあかたり
雪ありくれる梅をけら梅をけ

一梅くハあし川乃山らの雪
みまがゆらふ

その白ういてわびつ

^秘けがはこもり長くぬりり
しりてとさゆりしそくぬりり
たり 昇 雲

くまの

^秘白あせ

なやらりんしそくぬりり

何

爆竹驚濤鬼駢雉聚小兒 東破

追雉儀 禁中

亥一刻左右近立陣即開承明

門 不用長平 永安 雉人土桑濠湯仰尊

祭讀呪文畢方相先作雉声以

之擊手楯如此三及群臣相承和

呼追之侍臣相分殿内并四方

駢逐を威方相入自華門誑御

殿出自北廊畢 羽林抄 内藏寮雉

木振鼓をとり刻浪殿上の男女房

くくくくくくくくくくくく動揺わり見

紅葉賀巻巻注

兼花物語云因融院乃くくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくく

原 かしらくくくくくくくくくくくく

わく世ときわつさくぬ

何

おろよしつら月日ととあまな

秘

とらよりいそめしうきく 教忠

等

上旬教忠亦同古方をねがいて浦
せしむえ

はいつらののがとら事にはひらきとなふ
ゆるせしをきいてうせ給えこころたはら
ゆりきいそ物いふくのりくせ
とふしうかきうきうきうきうきうき

我

何

六條院拜礼の事な今年世成り
はくき名ぬりいそに法持せしれを

ぬえ

同

是ハ去年の事とわけていそ

秘

院乃拜礼と年よりありあういそ
用をこめりや

等

美たか

